看護学部ニュース・レター Vol.45

# 光と緑の風通信

発行／2013年9月30日　編集／福島県立医科大学看護学部　〒960-1295 福島市光が丘1番地　Tel.024-547-1111（代）

## 只今、助産実習中!!

副学部長　太田　操

この通信が発行される頃は、爽やかな秋風が吹いていることを期待するが……、今日も8月の猛暑、高知県の四万十市では、なんと観測史上最高の41℃を記録した。しかし、うだぁ～としてはいられない。助産学を専攻している学生は、只今、助産実習中。大学生活最後（になるかもしれない）の夏休みに汗だくの分娩介助実習である。生命誕生の場面は、いつもエネルギッシュでパワフルで壮絶で、そして感動的である。

先日のケースカンファレンスで、ある学生は「お産の痛みを訴える産婦へのケア」をテーマにした。お産は痛い。勿論そんな事は分かっている。その産婦へどのようなケアをしたら良いのか、痛みを受け容れられるためにどのように関わるか、を考えたいというのがその学生の趣旨である。カンファレンスでは先輩助産師から沢山のアドバイスを頂いた。その中の1つ「お産は、母親の体の底から産み出そうとするエネルギーが溢れ出て陣痛の力となって生命が誕生する。それがお産の痛みである」。この言葉は、感覚的であるが、とても理にかなっている。この〝痛み〟がなければ生まれない。

8月12日付の朝日新聞に、帝王切開率がこの20年で倍増しているとの記事が載っていた。その一角に掲載されていた〈母の産む力を引き出して〉と題した杉本充弘・日赤周産母子小児センター顧問の話の中に「…可能な限り母親の〝産む力〟を引き出すのが望ましい」という発言があった。

お産には、生まれようとする児のリズムと産み出す母のリズムとがある。それらがピタッと合って大きな力となって生命が誕生する。これは、お産の現場に関わる誰もが感じていることである。助産実習は今年もアツい！（おおた　みさお）

# new students

◉新入生のひとこと ◉新しい環境になって…。新鮮な声を新入生の方に聞きました。

**坂本　麗** ◉さかもと　うらら new

震災と原発事故という二次の被害を受けた福島県で学べる多くのことを吸収し自分の技術として、四年後には患者さんに親身であり看護師としても福島の医療に従事・貢献します。

**渡辺　杏珠** ◉わたなべ　きょうじゅ new

私は、将来高齢者医療に携わる看護師になりたいと思っています。高齢化が進む地方の社会の中で最後まで患者さんに寄り添える知識や技術、資格を4年間で身につけていきたいです。

**二瓶　有美子** ◉にへい　ゆみこ new

大学では医療に関する知識や技術だけではなく、人としても大きく成長して、自分の目指す看護師になりたいです。そして福島県の復興に力を注いでいきたいと思っています。

**伏見　祐人** ◉ふしみ　ゆうと new

私は救命救急に興味があるので、将来は救命救急の現場でリーダーシップをとれる多くの患者の選択肢や判断ができるようにこの福島県立医大で看護という学んで行きたいと思っています。

**岡部　郁美** ◉おかべ　いくみ new

私は将来どんな場面においても冷静に物事を判断し迅速に行動できる看護師になりたいです。そのために多くの知識を身に付け責任を持って行動できるようにしたいと思います。

**櫻庭　美弥** ◉さくらば　みや new

看護師を目指した一番の理由は、予想されている大地震の際に自分が看護師となって助けに行きたいということです。現場での判断に備えるため日々精進します。

**川崎　恵美** ◉かわさき　えみ new

震災を受けての福島県内の医療従事者不足の現状を知り、県内出身である自分にできることで貢献したい、特に救急に携わっていきたいと思っています。

**薗藤　孝祢** ◉そのふじ　こうね new

私は看護学部に所属していて、現在受講している講義の中で心理学、倫理学等に興味があります。将来は技術があるだけでなく、患者の気持ちもわかる看護師になりたいです。

**熊谷　美穂** ◉くまがい　みほ new

私は故郷の福島で活躍できる看護師になりたいと思っています。看護師としての知識や技術だけでなく、放射線に関する問題や地震医療などの危機管理的に学んでいきたいです。

**佐藤　優美** ◉さとう　ゆみ new

すばやく的確な判断が出来る看護師になれるように、教養の授業から専門の授業まで集中して受けていこうと思います。そして、コミュニケーションの探索に力をいれたいです。

**長井　葦** ◉ながい　すなお new

私は患者の病気だけでなく患者の精神面でもケアすることのできる看護師になりたいと思っています。また将来は小児科で働いてこれからの日本を支えていく世代の患者を支えることで日本の医療に貢献したいと思っています。

**福田　真希** ◉ふくだ　まき new

私はプライムナースという救急の現場で働き、また放射能の最先端知識を習得したいがために看護師になりました。そして何らの知識と技能に優れ、患者さんはもちろんですが、他の医療従事者からも信頼される看護師になりたいです。

**渡辺　桃子** ◉わたなべ　ももこ new

私は将来内科で働きたいと思っています。理由は内科医である私の父を見て自然と内科に憧れを抱いたためです。そして何事も臨機応変に対応できる看護師になりたいです。

**日下田友美** ◉くさかだ　ゆみ new

私の志望理由は看護師として福島の復興に貢献したかったからです。中でも心のケアを専門的に学んでみたいです。患者さんの心に寄り添っていけるような看護師を目指します。

**小林　歩実** ◉こばやし　あゆみ new

私は患者さんを取り巻く環境にも目をむけ、患者さんの日常や大切なものを尊重し、患者さんの気持ちに寄り添う、身体面だけでなく精神面も支えられる看護師になりたいです。

**奈良輪あり** ◉ならわ　あり new

私は大学生活を送っている患者さんは不安や緊張を抱えているはずだと思うので、将来は患者さんを医療面だけでなく、精神面でも支えられる看護師になりたいと思っています。

**菅原　千秋** ◉すがわら　ちあき new

ドラマ「ナースのお仕事」に憧れて看護学部に入りました。明るい職業で患者さんに寄り添っていただけるような看護師になりたいと思っています。

**伊藤　光美** ◉いとう　てるみ new

看護に対する熱意を持った友人と切磋琢磨し、語り合い、また部活動を通して先輩方から多くのことを学び、将来は福島の復興を医療の立場から支えられる看護師のなりたいです。

**佐藤　亜海** ◉さとう　あみ new

東日本大震災を経験しては自然災害のような緊急時にも臨機応変に対応できる看護師になりたいと思ったためにもこの大学で医療者のリーダーの自分を養成して過ごしていきたい。

**吉高麻衣子** ◉よしたか　まいこ new

私も看護学部の幅広い知識を学びたいと思い入学しました。特に地域看護学と在宅看護学を学び、自宅で生活をしたいと考える患者さんの力になれるような看護師になりたいです。

**安藤　志穂** ◉あんどう　しほ new

私は助産師になりたいと思いこの学校に入学しました。立派な助産師になるためこの4年間は勉強を中心に日々人間としても成長できるような大学生活を送りたいです。

**佐久間由衣** ◉さくま　ゆい new

4年間でたくさんのことを学び、豊富な知識と技術、看護の志を身につけ、人として大きく成長して福島の震災復興、地域医療に貢献できる看護師になれるよう頑張ります。

**古木　弓夏** ◉ふるき　ゆみか new

私は的確な洞察が出来るだけでなく、精神面のサポートまでしっかり出来る看護師になりたいです。そのためにも常にコミュニケーションや心理学の授業を真剣にしたいと思います。

**井上　沙希** ◉いのうえ　さき new

私は助産師の資格を取ろうと考えています。ですが、大きな病院で看護師助産師としての経験を積みゆくゆくは地方の医療機関で両方の仕事を全うできるようになりたいです。

**高久　遥香** ◉たかく　はるか new

私はこの福島県で高齢者や慢性患者に寄り添い支える看護師を目指したいです。高齢化の中私のまわりにも高齢者がたくさんいるので、そのような方々のための看護をしたいです。

**中西　美佳** ◉なかにし　みか new

助かる命がある方で失われていく命もある。そんなときこその医療に憧れた故に命に対して冷血にはなりたくその思いを理解できる看護師でいたい。

**秋元　友紀** ◉あきもと　ゆき new

私は助産師を目指して福島県立医大に入学しました。入学後に小児科や救急医療にも興味を持ちました。多くの知識や技術を習得し、自分の看護の幅を広げていきたいです。

**仁科　清** ◉にしな　きよし new

私は震災をきっかけにこちらの大学の存在を知り、岡山県から福島県へ来ました。次世代を担う子供たちを今一番必要とする福島県で、助産師になるための勉強を県立医大で学んでいきたいです。

**長谷川真優** ◉はせがわ　まゆ new

震災の影響や福島県出身ということもあり、そこで、間近で放射能などの問題を学生として学び、将来は福島県の放射能の問題に一人の看護師として向き合っていきたいです。

**高橋　奈緒** ◉たかはし　なお new

看護師には他の大学に行こうかなれますが、この医大を選んだからには、東日本大震災で大きな被害を受けた方の福島県で働き看護職者として何か役に立ちたいと思っています。

**高橋　葵** ◉たかはし　あおい new

看護師には他の大学に行こうかなれますが、この医大を選んだからには、東日本大震災で大きな被害を受けた方の福島県で働き看護職者として何か役に立ちたいと思っています。

**秋元　友紀** ◉あきもと　ゆき new

私は助産師を目指して福島県立医大に入学しました。入学後に小児科や救急医療にも興味を持ちました。多くの知識や技術を習得し、自分の看護の幅を広げていきたいです。

**生方　美咲** ◉うぶかた　みさき new

医師の指示に従うだけでなく、自分自身で考えて行動できる自立した看護師になることはもちろんの事、患者や家族にとっても心安らげられる看護師になりたいです。

**丹野　顕真** ◉たんの　けんしん new

頭の固くない、医師や他の看護師、患者さんなどの言葉にもやんと耳をかたむけられる看護師になりたいです。大学生活の中で具体的にどうすればいいかをみつけていきたいです。

**鈴木　望美** ◉すずき　のぞみ new

ずっと目標にしていた福島県立医科大学に入学することができました。これから本学でたくさん学び、患者さんを笑顔にすることができるような看護師になりたいです。

**善方　悠香** ◉ぜんぽう　はるか new

看護師を志したきっかけである災害の看護を目にした時、その時の心遇う看護師が今の私が目指す看護の目標です。その目指す看護をこの福島県立医科大学で学んで行きたいと思います。

**小谷　唯** ◉こたに　ゆい new

私は患者さんへの良いコミュニケーションの取り方、患者さんを看護する上で大切な基礎知識について学びたいと思っています。医師と同じ立場に立つ看護師を目指します。

**目黒　綾** ◉めぐろ　あや new

将来なりたい看護師像にどうやったらたどりつけるか。それぞれ働く環境やまわられる知識や教養もかなり違ってくるが、看護師として必要な資質などの大学で磨き、形成したい。

**本田　里穂** ◉ほんだ　りほ new

私は福島県立医科大学で柔軟な発想を生かせる看護師になるべく勉強することに加えて知的探究心や県の地域一体型医療に貢献したい。

**欠野　聡** ◉かけの　さとし new

将来は地元の医療に貢献し患者に寄り添える看護師になりたいと考え、県内の医療従事者の中心的役割である福島県立医科大学で高度な医療について学びたいと思います。

**岡部　瑞穂** ◉おかべ　みずほ new

私の理想は地域医療に携わることです。福島は地域差が激しいですがその地で必要とされている医療を肌で感じ、全ての県民が納得できる医療を提供できるように努力していきたいです。

**田中　鳴海** ◉たなか　なるみ new

私はバスケットボールに携わっていたと思っています。医療や病気に関する知識を多く身につけ、くりの要請があった時に素早く人の命を救う手伝いをしたいと思います。

**村上　伴** ◉むらかみ　ばん new

私が知り得ない間に入院していた時、不安な気持ちでいた私に優しく接してくれた看護師さんが印象的だったのです。小児看護について勉強して将来は小児科の病院に勤めたいと思っています。

**古川　まゆ** ◉ふるかわ　まゆ new

私は、手術室の看護師になりたいと考えています。まだ知らない知識が多いので、4年間で講義や実習を通して必要な知識を身につけて必要とされる看護師になりたいです。

**今井　敏輝** ◉いまい　としき new

私は医師に憧れられる看護師になりたいです。看護師だからこそ医師に見下されたくはありません。そのために本学で医療全般について多くを学んでいきたいです。

**大槻　真子** ◉おおつき　まこ new

この大学で学べる喜びと感謝の気持ちをだれよりも勉学に励みます。放射能などから生じる健康問題についての知識を備え、福島に貢献できる看護師になれるように頑張ります。

**丹治　智絢** ◉たんじ　ちあや new

患者さんと信頼関係を築くために知識と技術はもちろんのこと一緒に働く看護師達の先頭に立てるような看護師になりたい。

**鈴木　綾佳** ◉すずき　あやか new

私は福島県の保健医療福祉携わることの出来る看護師になり、未だ復興の進まない地域で被災者が抱えるストレスに寄り添えるような災害や放射能について学びたいと考えております。

**五十嵐郁美** ◉いがらし　いくみ new

私は看護師だけでなく、助産師の資格を取得できるのであの大学を選びました。勉学に励み、将来は看護師として患者さんを助け、助産師として命の誕生のお手伝いをしたいです。

**中西　美佳** ◉なかにし　みか new

助かる命がある方で失われていく命もある。そんなときこその医療に憧れた故に命に対して冷血にはなりたくその思いを理解できる看護師でいたい。

**大杉　由紀** ◉おおすぎ　ゆき new

私は小児科が産婦人科の看護師になりたいからです。私は今校一年生ですが、病院での生活が残り四年になっており、幼児期に看護を通してかかわっていきたいと思っています。

**大塚万里奈** ◉おおつか　まりな new

私は保健師になることを目指しています。放射能汚染に不安を感じている人の心を少しでも癒せるようになるためにもこのような知識を身につけたいと思い、この大学を志望しました。

**高久　遥香** ◉たかく　はるか new

私はこの福島県で高齢者や慢性患者に寄り添い支える看護師を目指したいです。高齢化の中私のまわりにも高齢者がたくさんいるので、そのような方々のための看護をしたいです。

**井上　沙希** ◉いのうえ　さき new

私は助産師の資格を取ろうと考えています。ですが、大きな病院で看護師助産師としての経験を積みゆくゆくは地方の医療機関で両方の仕事を全うできるようになりたいです。

**菅野　瑞紀** ◉すがの　みずき new

看護師として福島で働いていきたい。そのために放射能についての知識や今の地域の方の医療状況をきちんと把握する。また看護師となった自分に何ができるかを日々考えている。

**志賀安小美** ◉しが　あさみ new

震災や原発事故のトラウマケアーとりの存在が多くの命を救うことを実感した。私は将来、より早くより多くの人へ助力をしたい。そのためにICUでのフライトナースとして医療に携わりたい。

**丹治　智絢** ◉たんじ　ちあや new

患者さんと信頼関係を築くために知識と技術はもちろんのこと一緒に働く看護師達の先頭に立てるような看護師になりたい。

**竹治　翔太** ◉たけじ　しょうた new

学校の勉強をしっかりして、それ以外に体の各部位の名称や病気について知識をつけ、将来は患者さんからの病気などに関する質問にきちんと答えられる看護師になる。

**伊藤　優花** ◉いとう　ゆか new

私の将来の目標は、まず福島県立医科大学付属病院で看護師として震災の復興に携わり、その経験を元に国境なき医師団などの団体に入って、世界の医療現場で働くことです。

**長谷川真優** ◉はせがわ　まゆ new

震災の影響や福島県出身ということもあり、そこで、間近で放射能などの問題を学生として学び、将来は福島県の放射能の問題に一人の看護師として向き合っていきたいです。

**佐藤　未来** ◉さとう　みく new

私は患者さんと同じ目線に立って物事を捉えられる看護師になりたいです。ただにゃがみこんで同じ目線に立つだけなら誰にでもできます。しかし私は知識面でも精神面でも充実した看護師になりたいです。

**丹野　顕真** ◉たんの　けんしん new

頭の固くない、医師や他の看護師、患者さんなどの言葉にもやんと耳をかたむけられる看護師になりたいです。大学生活の中で具体的にどうすればいいかをみつけていきたいです。

**鈴木　望美** ◉すずき　のぞみ new

ずっと目標にしていた福島県立医科大学に入学することができました。これから本学でたくさん学び、患者さんを笑顔にすることができるような看護師になりたいです。

**善方　悠香** ◉ぜんぽう　はるか new

看護師を志したきっかけである災害の看護を目にした時、その時の心遇う看護師が今の私が目指す看護の目標です。その目指す看護をこの福島県立医科大学で学んで行きたいと思います。

**小谷　唯** ◉こたに　ゆい new

私は患者さんへの良いコミュニケーションの取り方、患者さんを看護する上で大切な基礎知識について学びたいと思っています。医師と同じ立場に立つ看護師を目指します。

**目黒　綾** ◉めぐろ　あや new

将来なりたい看護師像にどうやったらたどりつけるか。それぞれ働く環境やまわられる知識や教養もかなり違ってくるが、看護師として必要な資質などの大学で磨き、形成したい。

**本田　里穂** ◉ほんだ　りほ new

私は福島県立医科大学で柔軟な発想を生かせる看護師になるべく勉強することに加えて知的探究心や県の地域一体型医療に貢献したい。

**欠野　聡** ◉かけの　さとし new

将来は地元の医療に貢献し患者に寄り添える看護師になりたいと考え、県内の医療従事者の中心的役割である福島県立医科大学で高度な医療について学びたいと思います。

**田中　鳴海** ◉たなか　なるみ new

私はバスケットボールに携わっていたと思っています。医療や病気に関する知識を多く身につけ、くりの要請があった時に素早く人の命を救う手伝いをしたいと思います。

**村上　伴** ◉むらかみ　ばん new

私が知り得ない間に入院していた時、不安な気持ちでいた私に優しく接してくれた看護師さんが印象的だったのです。小児看護について勉強して将来は小児科の病院に勤めたいと思っています。

**古川　まゆ** ◉ふるかわ　まゆ new

私は、手術室の看護師になりたいと考えています。まだ知らない知識が多いので、4年間で講義や実習を通して必要な知識を身につけて必要とされる看護師になりたいです。

**今井　敏輝** ◉いまい　としき new

私は医師に憧れられる看護師になりたいです。看護師だからこそ医師に見下されたくはありません。そのために本学で医療全般について多くを学んでいきたいです。

**大槻　真子** ◉おおつき　まこ new

この大学で学べる喜びと感謝の気持ちをだれよりも勉学に励みます。放射能などから生じる健康問題についての知識を備え、福島に貢献できる看護師になれるように頑張ります。

**丹治　智絢** ◉たんじ　ちあや new

患者さんと信頼関係を築くために知識と技術はもちろんのこと一緒に働く看護師達の先頭に立てるような看護師になりたい。

**竹治　翔太** ◉たけじ　しょうた new

学校の勉強をしっかりして、それ以外に体の各部位の名称や病気について知識をつけ、将来は患者さんからの病気などに関する質問にきちんと答えられる看護師になる。

**伊藤　優花** ◉いとう　ゆか new

私の将来の目標は、まず福島県立医科大学付属病院で看護師として震災の復興に携わり、その経験を元に国境なき医師団などの団体に入って、世界の医療現場で働くことです。

**長谷川真優** ◉はせがわ　まゆ new

震災の影響や福島県出身ということもあり、そこで、間近で放射能などの問題を学生として学び、将来は福島県の放射能の問題に一人の看護師として向き合っていきたいです。

**佐藤　未来** ◉さとう　みく new

私は患者さんと同じ目線に立って物事を捉えられる看護師になりたいです。ただにゃがみこんで同じ目線に立つだけなら誰にでもできます。しかし私は知識面でも精神面でも充実した看護師になりたいです。

**丹野　顕真** ◉たんの　けんしん new

頭の固くない、医師や他の看護師、患者さんなどの言葉にもやんと耳をかたむけられる看護師になりたいです。大学生活の中で具体的にどうすればいいかをみつけていきたいです。

**鈴木　望美** ◉すずき　のぞみ new

ずっと目標にしていた福島県立医科大学に入学することができました。これから本学でたくさん学び、患者さんを笑顔にすることができるような看護師になりたいです。

**善方　悠香** ◉ぜんぽう　はるか new

看護師を志したきっかけである災害の看護を目にした時、その時の心遇う看護師が今の私が目指す看護の目標です。その目指す看護をこの福島県立医科大学で学んで行きたいと思います。

**小谷　唯** ◉こたに　ゆい new

私は患者さんへの良いコミュニケーションの取り方、患者さんを看護する上で大切な基礎知識について学びたいと思っています。医師と同じ立場に立つ看護師を目指します。

**目黒　綾** ◉めぐろ　あや new

将来なりたい看護師像にどうやったらたどりつけるか。それぞれ働く環境やまわられる知識や教養もかなり違ってくるが、看護師として必要な資質などの大学で磨き、形成したい。

**本田　里穂** ◉ほんだ　りほ new

私は福島県立医科大学で柔軟な発想を生かせる看護師になるべく勉強することに加えて知的探究心や県の地域一体型医療に貢献したい。

**欠野　聡** ◉かけの　さとし new

将来は地元の医療に貢献し患者に寄り添える看護師になりたいと考え、県内の医療従事者の中心的役割である福島県立医科大学で高度な医療について学びたいと思います。

**田中　鳴海** ◉たなか　なるみ new

私はバスケットボールに携わっていたと思っています。医療や病気に関する知識を多く身につけ、くりの要請があった時に素早く人の命を救う手伝いをしたいと思います。

**村上　伴** ◉むらかみ　ばん new

私が知り得ない間に入院していた時、不安な気持ちでいた私に優しく接してくれた看護師さんが印象的だったのです。小児看護について勉強して将来は小児科の病院に勤めたいと思っています。

**藤本　夏海** ◉ふじもと　なつみ new

私は将来福島県で働きたいと思っています。この大学で多く色んな人と関わりながら福島をよく知り、福島県により貢献できるような看護師を目指したいと考えています。

**山谷　沙希** ◉やまや　さき new

農家の娘ゆえ、幼学と様々な人との交流から知識を増やすことが出来ることです。大学生活での学びを通して、将来は技術力とおもいやりのある看護師を目指したいです。

**小野　愛実** ◉おの　まなみ new

福島県民として県民の方々のために大学で学んだことを通して、どんなことでも患者さんの立場に立って物事を考え、多くの患者さんに信頼されるような看護師になりたいと思います。

**平本　愛美** ◉ひらもと　まなみ new

この大学で放射能や看護について知識と技術をしっかり学び、世界から注目を浴びている福島の医療に貢献できるような、小児看護分野での専門看護師になりたいと思います。

**佐久間由衣** ◉さくま　ゆい new

4年間でたくさんのことを学び、豊富な知識と技術、看護の志を身につけ、人として大きく成長して福島の震災復興、地域医療に貢献できる看護師になれるよう頑張ります。

**古木　弓夏** ◉ふるき　ゆみか new

私は的確な洞察が出来るだけでなく、精神面のサポートまでしっかり出来る看護師になりたいです。そのためにも常にコミュニケーションや心理学の授業を真剣にしたいと思います。

**柴田　涼子** ◉しばた　りょうこ new

私は、今までお支えてくれたたくさんの人たちと感謝の気持ちを抱く事ができる福島で働ける看護師になりたいです。私のふるさとである福島で働ける立派な看護師を目指して精一杯がんばりたいです。

**檜澤　ゆい** ◉ひのさわ　ゆい new

人の役に立ちたいという思いが広い地域看護学の授業で学んだ、人の気持ちに寄り添える人間に成長したいと思っています。一日一日を大切に勉学にも励み過ごしていきたいです。

**竹治　翔太** ◉たけじ　しょうた new

学校の勉強をしっかりして、それ以外に体の各部位の名称や病気について知識をつけ、将来は患者さんからの病気などに関する質問にきちんと答えられる看護師になる。

**伊藤　優花** ◉いとう　ゆか new

私の将来の目標は、まず福島県立医科大学付属病院で看護師として震災の復興に携わり、その経験を元に国境なき医師団などの団体に入って、世界の医療現場で働くことです。

**長谷川真優** ◉はせがわ　まゆ new

震災の影響や福島県出身ということもあり、そこで、間近で放射能などの問題を学生として学び、将来は福島県の放射能の問題に一人の看護師として向き合っていきたいです。

**佐藤　未来** ◉さとう　みく new

私は患者さんと同じ目線に立って物事を捉えられる看護師になりたいです。ただにゃがみこんで同じ目線に立つだけなら誰にでもできます。しかし私は知識面でも精神面でも充実した看護師になりたいです。

**丹野　顕真** ◉たんの　けんしん new

頭の固くない、医師や他の看護師、患者さんなどの言葉にもやんと耳をかたむけられる看護師になりたいです。大学生活の中で具体的にどうすればいいかをみつけていきたいです。

**鈴木　望美** ◉すずき　のぞみ new

ずっと目標にしていた福島県立医科大学に入学することができました。これから本学でたくさん学び、患者さんを笑顔にすることができるような看護師になりたいです。

**善方　悠香** ◉ぜんぽう　はるか new

看護師を志したきっかけである災害の看護を目にした時、その時の心遇う看護師が今の私が目指す看護の目標です。その目指す看護をこの福島県立医科大学で学んで行きたいと思います。

**小谷　唯** ◉こたに　ゆい new

私は患者さんへの良いコミュニケーションの取り方、患者さんを看護する上で大切な基礎知識について学びたいと思っています。医師と同じ立場に立つ看護師を目指します。

**目黒　綾** ◉めぐろ　あや new

将来なりたい看護師像にどうやったらたどりつけるか。それぞれ働く環境やまわられる知識や教養もかなり違ってくるが、看護師として必要な資質などの大学で磨き、形成したい。

**本田　里穂** ◉ほんだ　りほ new

私は福島県立医科大学で柔軟な発想を生かせる看護師になるべく勉強することに加えて知的探究心や県の地域一体型医療に貢献したい。

**欠野　聡** ◉かけの　さとし new

将来は地元の医療に貢献し患者に寄り添える看護師になりたいと考え、県内の医療従事者の中心的役割である福島県立医科大学で高度な医療について学びたいと思います。

**田中　鳴海** ◉たなか　なるみ new

私はバスケットボールに携わっていたと思っています。医療や病気に関する知識を多く身につけ、くりの要請があった時に素早く人の命を救う手伝いをしたいと思います。

**村上　伴** ◉むらかみ　ばん new

私が知り得ない間に入院していた時、不安な気持ちでいた私に優しく接してくれた看護師さんが印象的だったのです。小児看護について勉強して将来は小児科の病院に勤めたいと思っています。

**藤本　夏海** ◉ふじもと　なつみ new

私は将来福島県で働きたいと思っています。この大学で多く色んな人と関わりながら福島をよく知り、福島県により貢献できるような看護師を目指したいと考えています。

**山谷　沙希** ◉やまや　さき new

農家の娘ゆえ、幼学と様々な人との交流から知識を増やすことが出来ることです。大学生活での学びを通して、将来は技術力とおもいやりのある看護師を目指したいです。

**小野　愛実** ◉おの　まなみ new

福島県民として県民の方々のために大学で学んだことを通して、どんなことでも患者さんの立場に立って物事を考え、多くの患者さんに信頼されるような看護師になりたいと思います。

**平本　愛美** ◉ひらもと　まなみ new

この大学で放射能や看護について知識と技術をしっかり学び、世界から注目を浴びている福島の医療に貢献できるような、小児看護分野での専門看護師になりたいと思います。

**古木　弓夏** ◉ふるき　ゆみか new

私は的確な洞察が出来るだけでなく、精神面のサポートまでしっかり出来る看護師になりたいです。そのためにも常にコミュニケーションや心理学の授業を真剣にしたいと思います。

**井上　沙希** ◉いのうえ　さき new

私は助産師の資格を取ろうと考えています。ですが、大きな病院で看護師助産師としての経験を積みゆくゆくは地方の医療機関で両方の仕事を全うできるようになりたいです。

**菅野　瑞紀** ◉すがの　みずき new

看護師として福島で働いていきたい。そのために放射能についての知識や今の地域の方の医療状況をきちんと把握する。また看護師となった自分に何ができるかを日々考えている。

**志賀安小美** ◉しが　あさみ new

震災や原発事故のトラウマケアーとりの存在が多くの命を救うことを実感した。私は将来、より早くより多くの人へ助力をしたい。そのためにICUでのフライトナースとして医療に携わりたい。

**丹治　智絢** ◉たんじ　ちあや new

患者さんと信頼関係を築くために知識と技術はもちろんのこと一緒に働く看護師達の先頭に立てるような看護師になりたい。

**鈴木　綾佳** ◉すずき　あやか new

私は福島県の保健医療福祉携わることの出来る看護師になり、未だ復興の進まない地域で被災者が抱えるストレスに寄り添えるような災害や放射能について学びたいと考えております。

**五十嵐郁美** ◉いがらし　いくみ new

私は看護師だけでなく、助産師の資格を取得できるのであの大学を選びました。勉学に励み、将来は看護師として患者さんを助け、助産師として命の誕生のお手伝いをしたいです。

**中西　美佳** ◉なかにし　みか new

助かる命がある方で失われていく命もある。そんなときこその医療に憧れた故に命に対して冷血にはなりたくその思いを理解できる看護師でいたい。

**大杉　由紀** ◉おおすぎ　ゆき new

私は小児科が産婦人科の看護師になりたいからです。私は今校一年生ですが、病院での生活が残り四年になっており、幼児期に看護を通してかかわっていきたいと思っています。

**大塚万里奈** ◉おおつか　まりな new

私は保健師になることを目指しています。放射能汚染に不安を感じている人の心を少しでも癒せるようになるためにもこのような知識を身につけたいと思い、この大学を志望しました。

**高久　遥香** ◉たかく　はるか new

私はこの福島県で高齢者や慢性患者に寄り添い支える看護師を目指したいです。高齢化の中私のまわりにも高齢者がたくさんいるので、そのような方々のための看護をしたいです。

**井上　沙希** ◉いのうえ　さき new

私は助産師の資格を取ろうと考えています。ですが、大きな病院で看護師助産師としての経験を積みゆくゆくは地方の医療機関で両方の仕事を全うできるようになりたいです。

**菅野　瑞紀** ◉すがの　みずき new

看護師として福島で働いていきたい。そのために放射能についての知識や今の地域の方の医療状況をきちんと把握する。また看護師となった自分に何ができるかを日々考えている。

**志賀安小美** ◉しが　あさみ new

震災や原発事故のトラウマケアーとりの存在が多くの命を救うことを実感した。私は将来、より早くより多くの人へ助力をしたい。そのためにICUでのフライトナースとして医療に携わりたい。

# 実習の学び

## 地域看護学実習を通しての学び

看護学部4年　**河内　麻実**

私が実習させていただいた相馬市は、東日本大震災の影響を大きく受けました。各地で新しい家屋が建設されていたり、ゲートボールを楽しむ高齢者の方々が見受けられるようになった一方、未だに仮設住宅での生活を余儀無くされ避難を強いられている方々が多くいらっしゃる状況です。このような現状の中で、住民全体を様々な視点から捉え、ヘルスケアニーズを包括的に把握していくことが重要であると学びました。

また、地域看護の対象は乳幼児から高齢者と幅広く、ヘルスケアニーズも様々です。そのような多様なヘルスケアニーズに対応していくためにも、多くの他機関と連携・協働していくことの大切さを学びました。

最後に、相馬市の方々、3週間に渡り地域看護学実習をさせていただきありがとうございました。この実習で得た経験、学びを今後に活かしていきたいと思います。

（かわうち　まみ）

## 障害者看護学実習での学び

看護学部4年　**武村　直也**

障害者看護学実習は一週間という短い期間であったが、患者さんとスタッフから多くのことを教わった貴重な実習であった。

私は、身体に障害をもつ患者さんの日常生活を支える中で、リハビリ室で訓練したことを病棟での生活に活かせるようチームで統一したかかわりをもつことや、他職種と情報を交換してリハビリにつなげること、そして退院後の生活を見据えてじっと見守る姿勢をもつことの重要性を学んだ。そして患者さんは、回復への希望と現実との間で揺れる気持ちを抱いており、たとえ身体機能が元に戻らなくとも、自ら障害を受容して「これからも生きていける」と思えるよう、患者さんの気持ちに寄り添い続けることの重要性を学ぶことができた。

（たけむら　なおや）

## 基礎看護学実習から学んだこと

看護学部2年　**多田　ももこ**

今回の実習では、入院中の方を初めて受け持たせていただき、対象を理解することを重点的な目的として取り組みました。対象は、長い入院生活のため仕事を長期間休まなくてはならず、社会復帰まで時間がかかることへの焦り、治療の影響により口腔内に問題が生じて、食事が摂取しにくくなり、食事が楽しみではなく病気を治すために必要と感じていることなどがわかり、病気を抱え治療を受けることが、時として対象のそれまでの生活を大きく変化させてしまうことを理解することができました。

また、自宅を離れ病院で生活を送るという環境の変化は対象に空間や時間の制限を強いる事、対象はその苦痛や不自由さを伴いながら、入院前の生活とは全く違う時間を過ごしていることがわかりました。今回の実習を通して、人間にとって生活する環境がいかに重要であるか初めて理解できたように思います。

対象を理解するには、小さな変化も見逃さず、常に関心を持ち続けることと、相手との距離を意識することが必要であると感じました。

病院実習は、患者さんが受け入れてくださるからこそ、成り立つことがわかりました。たくさんの方のお力添えのおかげで実習ができることを忘れずに、これらもたくさんの知識と技術を身につけたいと思います。

（ただ　ももこ）

## 家族をケアの対象として捉えること

看護学部4年　**中山　尚美**

家族に重点を置いた今回の実習を通して、改めて家族とはどういうものかを考える機会となりました。実習前の私は、いかなる時も協力し合うのが家族であると思っていました。しかし実際には「こうしてあげたい」という気持ちがあっても仕事をしなければならなかったり経済的に困難であったりと、ご家庭によって価値観や状況は様々でした。そのため、看護師が各ご家族を比較して良し悪しを決めるのではなく、「その家族らしさ」を尊重して、個別性に応じた関わりが大切であると学びました。これらの関わりは在宅看護でのみ求められるのではなく、医療や看護が提供されるあらゆる場面において必要となってくるものだと思います。この実習での気づきを今後も振り返りながら、患者さんとそのご家族に寄り添った温かみのある関わりをしていきたいです。

（なかやま　なおみ）



# Welcome New Teathers

## 新任教員のあいさつ

## よろしくお願いいたします

療養支援看護学部門

**大崎　瑞恵**

皆様、こんにちは。今年の4月に療養支援看護学部門（老人）に着任いたしました。出身は青森県八戸市、山形でキラキラ輝く学生時代と臨床を過ごし、青森でしっとりと教育と研究に目覚め、さわやかな風に吹かれて福島へやってまいりました。福島での生活は初めてで、八戸に残してきた愛犬のことを想うと涙が出てしまう今日この頃ですが、この福島県立医科大学で皆様とお会いできたご縁を大切にし、日々楽しく一緒に学んでいきたいと考えております。そしてそれが高齢者の健やかな日々に貢献できればと思っております。まだまだ未熟者ではありますが努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。（おおさき　みずえ）

## ふたたび母校に

療養支援看護学部門

**太田　由紀**

4月より療養支援看護学部門（老人領域）の助手として着任致しました。私は本学の5期生として卒業し、神経内科病棟に勤めておりました。教員として母校に戻り、今は3年生とともに老年看護学を学び、4年生とともに障害者看護学実習で奮闘している毎日です。自分が学生だった頃と変わらない校舎や先生方にほっとする気持ちと、変わってしまった光が丘会館やネットワークシステムに驚きを感じながら、教員として精一杯がんばっています。看護師としても教員としても未熟な私です。自分の看護を振り返りつつ、学生の皆さんに何を学び、感じ取ってほしいのかを常に考えながら、皆さんと共に成長していきたいと思っています。

（おおた　ゆき）

## 皆さん、はじめまして

療養支援看護学部門

**伊東　直美**

本年度より、福島県立医科大学附属病院と本学部との人事交流として療養支援看護学部門に着任いたしました。私は本学部の六期生として卒業し、今年三月までの六年間、附属病院で勤務していました。臨床の場から教育の場へと職場環境が変わり、不安や緊張もありますが、母校に戻り、またこうして改めて看護について考えられる環境に恵まれたことを嬉しく思っています。教員という言葉に重く責任を感じていますが、看護師の先輩として、学生の皆さんに看護の楽しさや奥深さなど伝えられたら良いなと思います。講義や実習を通して学生の皆さんと共に学び、共に成長していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

（いとう　なおみ）

## よろしくお願いいたします

地域・在宅看護学部門

**古戸　順子**

みなさまこんにちは。

この4月に、地域・在宅看護学部門に着任いたしました。3月までは、保健所の保健師として、地域看護の現場で活動して参りました。

数年前に学びを深めました本大学大学院では、6階の研究室から緑あふれる静かな山々を眺めながら学習するのが大好きでした。そして、この4月からも、この素敵な自然に心を癒されながら勤務しております。

教育・研究者としては、まだまだ未熟ではありますが、自分の経験した地域看護の実際と理論とを結びつけながら、少しでも多くのことを伝えて行きたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（ふると　じゅんこ）

## はじめまして

家族看護学部門

**細川　香苗**

このたび、家族看護学部門に着任いたしました細川香苗と申します。生まれも育ちも仙台ですが、大学院進学のために福島に移り住み、今年で福島生活も3年目になります。

2年間の学生生活の中で、春は花見山、夏はわらじ祭り、秋は二本松のちょうちん祭り、冬は駐車場で雪と格闘、といったように、福島の風土や伝統を楽しみながら感じてきました。とはいえ、地域性豊かな福島県は、土地ごと、季節ごとに様々な顔を見せてくれ、その魅力を知り尽くしたとはまだまだ言えません。

教員としての職務を全うすることはもちろんですが、せっかく移り住んだのですから、福島県の魅力を隅々まで、余すところなく堪能したいと思っています。皆様、なにか耳寄り情報がありましたら、是非ご連絡ください。

（ほそかわ　かなえ）

## よろしくお願いいたします

家族看護学部門

**宮崎　恵美**

7月より家族看護学部門の小児看護領域に着任いたしました。

私は、本学の2期生です。決して優秀な学生ではなかった自分でしたので、ここに教員として戻ってくるとは想像もしておりませんでした。落ちこぼれ学生の私が、臨床において、沢山の方々との出会いを通して成長させていただいたこと、そして教えていただいた看護の素晴らしさを、学生の皆さんと共有できたらと思っております。

新人教員としてドキドキの毎日ですが、学生の皆さんと一緒に学び、成長していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（みやざき　えみ）

基礎看護部門

**堀内　輝子**

（ほりうち　てるこ）

# Farewell Speech 退任教員のあいさつ

## 南国土佐からの風通信

中山　洋子

高知に移り住んで三か月が過ぎ、夏本番を迎えました。気温は福島の方が高いときもあるのですが、南国の太陽はギラギラと照りつけ、焼き焦げるという言葉がぴったりです。今は、八月〝よさこい祭り〟が近づいてきましたので、あちらこちらから鳴子とお囃子の音が聞こえてきます。ここ高知県立大学でも学生たちが体育館で夜遅くまで練習に勤しんでいます。

十五年間の福島県立医科大学看護学部での教員生活、多くの方々に支えていただき、たくさんの思い出を作ることができました。ありがとうございました。心からお礼を申し上げます。現在は、平成26年度から開講する国公私立の5つの大学による共同大学院「災害看護グローバルリーダー養成プログラム」に携わっています。5年間の博士課程で、災害看護学で世界を牽引することを目指した新しい試みです。自分の能力をどのように発揮できるのか見えない中での仕事ですが、東日本大震災のことを抱え続けていくには良い立ち位置かなと思い、踏み切りました。草鞋は二足までと決めて福島を旅立ったのですが、気がつけば増えつつあり、要注意です。皆さんの学生生活が健康で実りあるものでありますようにお祈りするとともに、どこかでまたお会いできることを楽しみにしています。

（なかやま　ようこ）

## ひとりひとりの力を結集して歩もう

荒川　唱子

私は看護学部開設前2年間は準備室、その後15年間は看護教員として勤めさせて頂きました。福島県に初めてできる看護学部でしたので他からの期待はもとより準備に関われた県職員の方々の努力も並々ならぬものがあったと思います。看護系大学があちこちにできていく時代、とりわけ私の注意を引いたのは「看護学部」にするということでした。その背景を考えてみると、日本にできた多くの看護系大学は医学部保健学科や医療技術学部などであり、看護が独立した分野としてなかなか認めてもらえない状況にありました。それは200以上もある現在の看護系大学でも変わってはいません。でもしっかりした看護の知識・技術、それに看護する心を学んでもらうように努力はしてきたつもりです。

平成24年度からカリキュラムが変わりました。それまで学部開設時のカリキュラムが活かされてきたことは驚きでしたが、先を見通したものであったといえるかも知れません。完成年度を迎えた平成14年4月から大学院修士課程の教育も始まりました。平成18年度から公立大学法人組織に変わりました。やがて看護学部棟は8号館（旧看護学部棟）と呼ばれるようになり、看護学部の教育に用いられていた教室や教育器機なども両学部が共同して利用するようになりました。

これまでの17年間を振り返って最も大きな衝撃は、東日本大震災だと思います。今も15～16万人は避難しているという状況をどのように受け止めればよいのでしょうか。家族、家、職業、知人、友人など失ったものはかり知れません。そして何よりも懸念されるのは、今後の見通しがたたないことです。これこそ大きなストレスに悩まされているのですなストレス人口が増え続けることに、どのように対処すればよいのでしょうか。

本学で学んだ皆さんひとりひとりが、自分の健康に勤めながら家族や近隣の方々にも気を配り、広く看護の対象者にも目を向けてもらえたらこんなに嬉しいことはありません。本学の卒業生が県内外・国内外で活躍する時代になっています。ひとりひとりの力を結集して歩もうではありませんか。そうすると解決の道が開けていくような気がします。

（あらかわ　しょうこ）

## 退任挨拶

横田　素美

最初の就任の3年間と2回目の就任の6年間に学部や大学院で出会った学生の皆さんとのかかわりが、新たな地で看護の教育を立ち上げていく原動力になっています。本当にありがとうございました。在学生の皆さんのことはもとより、卒業・修了された皆さんのことを、今も記憶の中で思い出されます。看護職がかかわった患者や家族の方々を心に留めていることと同じように、かかわった学生の一人ひとりのことを教員も大切に心の糧にしています。きっとまたどこかでお目にかかれることを楽しみにして、それまでは皆さんがそれぞれの地で踏ん張っていることに力づけられながら、私も看護を目指す学生と共に一歩一歩進んでいきたいと思っています。お元気で。

（よこた　もとみ）

## 福島の地で精神科看護の担い手を育成すべく

大竹　眞裕美

〝精神医療を担うナースを育成できる臨床を福島にも…〟という数年来の願望を実現しようと、大学から精神神病院（福島市内の競馬場に近い一陽会病院）の看護教育部長に転身しました。実習病院でもあるので臨地実習を病院側から支援していければと思っています。

今は看護学部の卒業生もいる病棟に出向き、〝難しいケース〟のアセスメントやケアの方向性を検討する活動、病棟の看護管理者と看護記録の充実やケア提供方法の改善点を考えたり…、という日々を送っています。これから病院のホームページから現任教育に関する情報を発信していきますので、精神科ナースとして自己発揮してみたい卒業生はアクセスしてみてくださいね。

（おおたけ　まゆみ）

## 光が丘に感謝

渡邉　かおり

皆様こんにちは、お久しぶりです。私は本学の卒業生で、附属病院の看護師を経て大学に戻ってきた、いわば光が丘で育った人間です。高校を卒業してからここで過ごした11年間は本当にあっという間に過ぎてしまいました。その中でも様々な方々との出会い、様々な経験・失敗をさせていただきながら、自分なりに看護の道を考えてきたつもりです。

現在は光が丘を離れ、地元の保健師として従事しております。今までと違った仕事に戸惑っておりますが、今までと同様、看護の道を突き進みたい所存です。またお会いできる日を楽しみにして、退職のご挨拶とさせていただきます。本当にお世話になりました。

（わたなべ　かおり）





# 短期留学で学んだこと

## イヤー・ギャップと10か月の南国生活

影山　優奈

私が在学中留学のため本学を休学して、1年以上が経つ。浪人していた時期なども合わせて、合計で3年間、私は周りの人より遅れていることになる。その3年間のイヤー・ギャップの中で、両親に心配や苦労をかけずに学校に通うということ以上に胸を張って人に言えるようなことをしていたかは正直分からない。もし違う人だったらその3年をもっと有意義に使えていたかもしれない。しかし、ただ一つ言えるのは、その3年間のおかげで他の人とは確実に違う経験ができて、そのおかげで自分の将来のことも見直すきっかけができたし、その3年があるかないかできっと私の将来は大きく変わっていただろうということだ。

2011年3月11日の大震災の後、母が留学支援のことを教えてくれた。それは、フィジー政府が震災で被災した地域に住む学生を奨学金として1年間受け入れるというものだった。申し込みは2011年の7月、その8ヶ月後の2012年2月に私はフィジーにいた。Fiji National Universityで私は晴れて看護学部の1年生となった。フィジーに到着したその日から、学生たちが雑居する寮に入居し、語学研修やオリエンテーションもなしに新学期が始まった。最初は動揺したが、予備知識や心構えができていなかったからこその刺激もあると思う。

数えきれないほどの特別な経験をしたフィジー生活の中で、看護実習とフィジーで活動する海外青年協力隊の隊員との関わりについて述べたい。看護実習は合計10週間あり、多くの体験をした。Quarter Settlementと呼ばれる貧民街での訪問、赤ちゃん検診、ヘルスセンターでのボイルと呼ばれる膿瘍（フィジーではとても多く、また糖尿病も多いため悪化しやすい）の治療、結核病棟にいる少年、盲・聾・唖の三重苦を持つ男性との会話、遠くの小さな島から治療きた少女リハビリの援助、病棟の寝たきりの患者さんのほとんどにある深い褥瘡。楽しさや嬉しさ自分の無力さを感じたこともたくさんあった。日本では、患者さんにしてはいけないと教わったこともフィジーでは「これでいいのよ」と片づけられてしまうことや日本ではここまで重症にならなかっただろうと思う場合も、学生の立場で何を言っても聞いてもらえないというフラストレーションもあった。しかし、スタッフと患者さん、患者さん同士の距離はとても近く、一人一人の患者さんと深く関わることができ、毎日が楽しくとても充実していた。海外青年協力隊（JICA）隊員の方々には多方に渡ってお世話になった。特に、隊員で看護師として活動されている方、保健のプロジェクトの専門家として活動されている方には実際に働いている現場・保健省を案内していただいたり、どんな仕事をしているのか詳しく教えていただいたり、実習中の相談をするなど、たくさん刺激を受け、支えていただいた。実際にフィジーやその近隣の発展途上国・中進国のためにいろいろ考えて必死に活動している人たちの姿を見て、実習の時に感じた自分の不甲斐なさを、この人たちのように活動することで将来克服していけたらという思いもできた。目標としたい人たちがこれほど近くにたくさんいる中で、仕事の話、真面目な話や冗談、現場の裏話も聞けて、真剣に私の将来を考えることのできたこのきっかけはずっと大切にしていきたいと思う。

濃いラベンダー色のナース服に身を包む学生たち。フィジーの人たちはこの色が大好き。

この約1年間の間、私の周りにはたくさんの温かい人々の支えがあった。言葉の問題や、日本から遠く離れてホームシックになったこともあった。しかしいつも私の周りにいてくれた友人、先生方、そして時にはバス停で知り合ったおばちゃん、市場でパイナップルを売るおじさんなど、周りにいるローカルの人々がそのフィジー人持ち前の明るさ、おおらかさ、人懐こさ、優しさで私を支え、見守ってくれた。日本からの電話やメールも精神的な大きな助けになった。数々の体験も、人々と出会いも私の一生の宝物だ。自分の目標にしたい人に出会えたこと、フィジーにいつか恩返しをするという目標ができたこと。多くの人に心配お世話になって心配もかけてこれでいいのかと迷ったこともある（実際今もその思いはまだ少しある）けど、他の人とは少し違う方法で大きく成長できたことに、このイヤー・ギャップと支えてくれた周りの人々にとても感謝している。留学でなくとも、大学でなにか一つきっかけを掴み、看護や国際医療等学問の面白さを知って将来への大きな目標を掲げ、将来それを実践出来る人が増える事を強く望む。

（かげやま　ゆうな）

# 異動あいさつ Personnel Changes

## 感謝

清水川　由美子

人事交流を通じて母性看護学・助産学部門の助教として2年間お世話になりました。

在職中は、講義、実習、研究等で多くの皆様に支えられ業務を遂行することができました。この場を借りてお礼を申し上げます。ここで皆様から学んだことを今後に活かし日々精進していきたいと思います。

最後に多くの皆様との出会い、ご一緒できたことを心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

（しみずがわ　ゆみこ）

## 2年間の人事交流を通して

冬室　美和

福島県立医科大学附属病院からの人事交流にて2年間、看護学部にお世話になりました。この2年間を通して、臨床では応用能力が求められ、基礎的な看護実践について軽視してしまうことがありました。

しかし学生と関わる中で看護の基礎的な技術や姿勢の大切さ、さまざま問題に対して、学生の目線に立って一緒に考えることによって、その学生なりの問題の解決の糸口を見つけることができることなどを再認識することができました。

看護学部で学ばせていただいたことを今後、臨床の場や新人への指導など活かしていくことができればと思っています。2年間、大変お世話になりました。

（ふゆむろ　みわ）

## 平成24年度看護学部卒業生の進路状況

（人）

| 卒業者数 | 88 |
|---|---|
| 就　職 | 85 |
| 県　内 | 45 |
| 県　外 | 40 |
| 進　学 | 3 |

（人）

| 県内就職先 | 45 |
|---|---|
| 福　島　市 | 28 |
| 郡　山　市 | 8 |
| 会津若松市 | 4 |
| いわき市 | 1 |
| 南相馬市 | 1 |
| 棚　倉　町 | 2 |
| 昭　和　村 | 1 |

（人）

| 県外就職先 | 40 |
|---|---|
| 北海道 | 1 |
| 東　北 | 5 |
| 関　東 | 33 |
| 東　海 | 1 |

平成25年3月21日に卒業式が挙行され、本学部からは88名の精鋭達が巣立った。うち、85名は実社会に船出し、3名はさらに専門性の高い学舎を目指した。85名のうち45名（51.1%）が県内の医療機関へ就職した。33名が看護師、10名が保健師、2名が助産師である。保健師の1人は、震災復興が急がれる南相馬市役所に就職し、活躍が期待される。他の40名（45.5%）は県外へと進出した。その多くは東京・神奈川など関東に、次いで宮城をはじめ東北に散っていった。進学を希望した3名のうち2名は養護教諭の教育課程を、残る1名が大学院助産師課程を目指し、全員が合格している。

文責：学生生活小委員会委員長　本多たかし

## 国家試験合格状況

《保健師・助産師・看護師国家試験の合格状況》

■保健師

| | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 受　験　者(人) | 88 | 89 | 91 | 91 | 83 |
| 合　格　者(人) | 87 | 84 | 88 | 84 | 82 |
| 合　格　率(%) | 98.9 | 94.4 | 96.7 | 92.3 | 98.8 |
| 全国合格率(%) | 97.5 | 89.2 | 89.7 | 87.8 | 97.7 |

■助産師

| | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 受　験　者(人) | 6 | 5 | 7 | 6 | 6 |
| 合　格　者(人) | 6 | 5 | 7 | 5 | 6 |
| 合　格　率(%) | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 83.3 | 100.0 |
| 全国合格率(%) | 98.9 | 96.0 | 98.2 | 83.2 | 99.9 |

■看護師

| | 24年度 | 23年度 | 22年度 | 21年度 | 20年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 受　験　者(人) | 84 | 82 | 86 | 82 | 77 |
| 合　格　者(人) | 81 | 82 | 85 | 81 | 76 |
| 合　格　率(%) | 96.4 | 100.0 | 98.8 | 98.8 | 98.7 |
| 全国合格率(%) | 94.1 | 95.1 | 96.4 | 93.9 | 89.9 |

本学は、卒業生の国家試験全員合格を中長期目標に掲げ、昨年度はその目標を達成した。幾つかの設問で異論が指摘された平成25年度の国家試験であったが、その合格者が3月25日に発表された。本学卒業生の成績であるが、看護師は受験者84人中81人、保健師は88人中87人、助産師は受験した6人全員が合格を果たした。前年度に比べて保健師の合格率は向上したが、2年連続の看護師全員合格はならなかった。合格率は其々96.4、98.9、100%と、全て全国平均（それぞれ94.1、97.5、98.6%）を上回ってはいるが、在学生・職員ともに安堵することなく、次年度の更なる成功へと邁進していきたいものである。

文責：学生生活小委員会委員長　本多たかし

## 編集後記

「もう2年……」そして「まだ2年……」

人夫々に思いは異なるのであろうが、福島と東京のわずか300kmの距離でこれほどまでに見え方や考え方の違うことも珍しい。2011・3・11の大震災とそれに続く原発事故である。

今年の新入生の大半は高等学校1年生の終わりに被災した。とりわけ原発事故に巻き込まれた学生たちの思いは「まだ2年……」であったに違いない。ある関係者がふと漏らした言葉。「帰還困難区域は30年どころか、50年たっても帰れないかも……」

そんなこととは関係なくオリンピックはやってくる。その30年、50年が、せめて2020年までに収束し、帰還した自宅で観戦できる事を望んでやまない。

もうすぐ「3年目」がやってくる。「もう○年もたったのか」と福島でも言える日を待ちわびる。そのため学生たちは福島の礎となるべく日夜勉学に励んでいる。

編集委員長　林　正幸

◆編集委員

林　正幸、本多たかし
有永　洋子、伊東　直美
川島　理恵、鈴木　学爾
根本　紀子、福島　直美